

平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 国語】

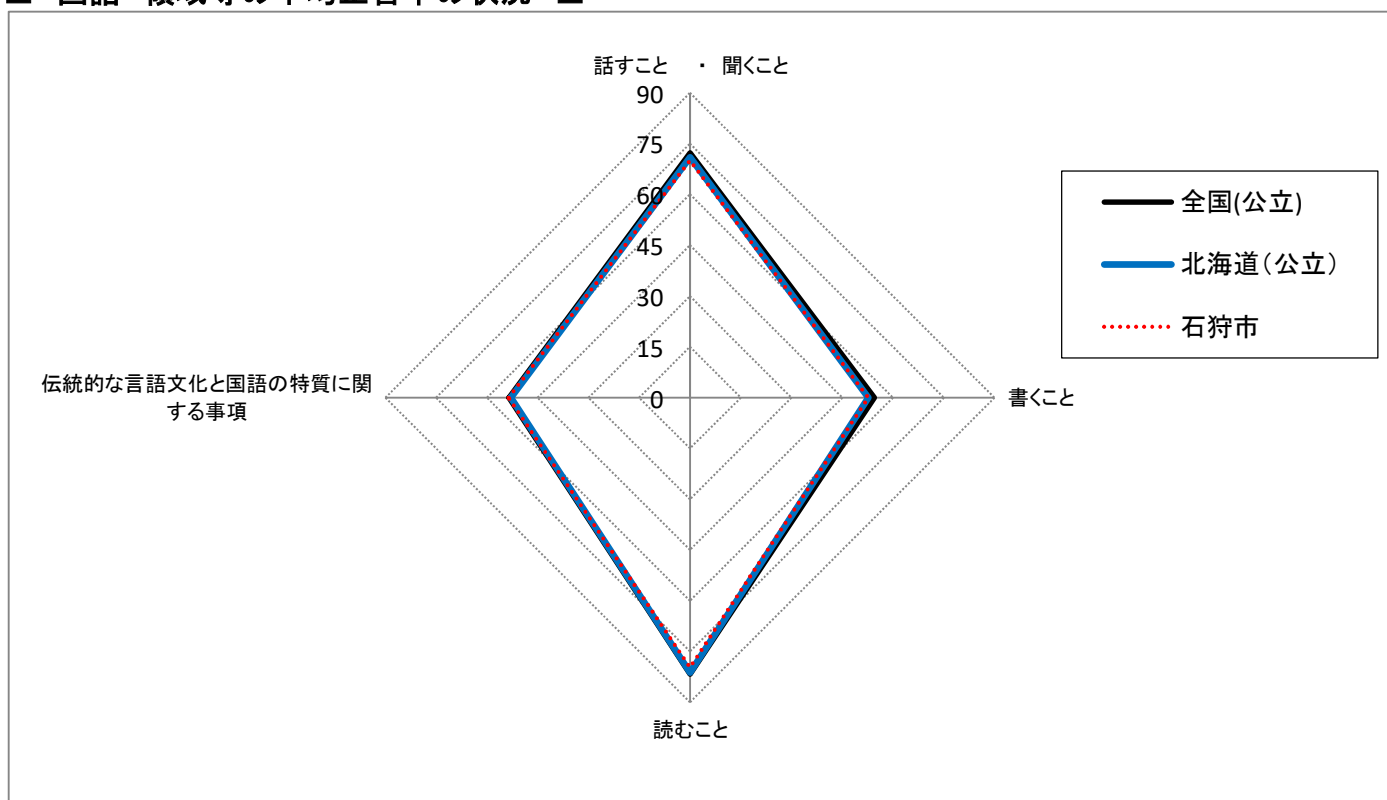
□ 正答率の状況 □

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	8.9問/14問	63.8%
全道(公立)	8.8問/14問	62.8%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				☆	○				
全国 : ☆									

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域等の平均正答率の状況 □



□ 国語科の概要 □

- ◇国語の正答率は、僅かに全国平均より低かったものの全道平均と同様の結果となりました。昨年度との比較では出題形式が変更されたことから一概には判断できませんが、昨年度の国語ABの平均正答率と比較すると全国との差は縮小し、ほぼ同様になりました。
- ◇領域別では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全道と同様であり、全国とほぼ同様(下位)という結果でした。また、「読むこと」は全道・全国とほぼ同様(下位)で、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全道・全国と同様の結果でした。
- ◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国とほぼ同様(下位)であり、「短答式」は全道・全国と同様の結果でした。また、「記述式」は全道と同様で全国とはほぼ同様(下位)の結果でした。

国語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に基づいて、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。

(例)

- ・問題文「公衆電話」を読み、目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く。
- ・問題文「食べ物の保存」から、目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。
- ・問題文「昼職人へのインタビュー」から、話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめる。
- ・問題数は14問です。

【各領域の傾向】

- ・「話すこと」「聞くこと」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、全道・全国と同様の傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1四(1)イ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の <u>部イ</u> を、漢字を使って書き直す	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う（友達にかぎらず）	伝統的な言語文化	83.2%	70.3%	69.4%
2一(1)	食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の(ア)に入る、(疑問に思ったこと)の①に対する答えとして適切なものを選択する	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む	読むこと	77.9%	80.0%	80.7%
2二	梅干し作りについて【知りたいこと】を調べるために、選んだ本の【目次の一部】から、読むページとして適切なものを選択する	目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む	読むこと	86.7%	88.3%	88.5%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の「 <u> </u> 」に、「2 調査の内容と結果」の(1)と(2)で分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く	書くこと	26.4%	27.9%	28.8%
1四(1)ウ	公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の <u>部ウ</u> を、漢字を使って書き直す	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う（ <u>かんしん</u> をもってもらいたい）	伝統的な言語文化	26.2%	34.1%	35.6%

【指導の改善にあたって】

【問題番号1三 書くこと】

- ・自分の考えが相手に伝わるように書くためには、事実と考えとを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたりすることが大切です。その際、文章の種類や特徴を踏まえて書くことが重要です。本問のような調べたことを報告する文章では、調べた結果から自分がどのような考えをもったかを表現することになります。
学習指導に当たっては、事実と感想、意見などと区別して書くことができるようにすること。また、自分の考えを支える理由や事例を明確にすることができるようにすることが大切です。

【問題番号1四（1）ウ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・文や文章の中で漢字を正しく使うこと、また、漢字の学習指導にあたっては、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが大切です。そのためには、新出漢字を読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、本問のように自分が書いた文章を見直す中で、漢字の持つ意味を考えながら、文や文章の中での正しい使い方を習得できるようにすることが大切です。
特に、同音異義語の学習指導に当たっては、同じ音からいくつかの熟語を思い浮かべ、それぞれの意味を考えて文脈にふさわしい熟語を選んで書くことができるようにすることが大切です。

【教科(国語)に関する意識(質問紙の傾向)】

- ・「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の63.6%、全国の64.2%に対して石狩市は63.9%で、全道より0.3ポイント高く、全国より0.3ポイント低くなっています。
- ・「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.1%、全国の93.0%に対して石狩市は92.8%で、全道より0.3ポイント、全国より0.2ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の84.4%、全国の84.9%に対して石狩市は84.8%で、全道より0.4ポイント高く、全国より0.1ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の91.3%、全国の91.2%に対して石狩市は90.2%で、全道より1.3ポイント、全国より1.0ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の74.3%、全国の76.9%に対して石狩市は71.7%で、全道より2.6ポイント、全国より5.2ポイント低くなっています。
- ・「国語の目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか」に対する肯定的な回答は、全道の76.0%、全国の78.1%に対して石狩市は79.1%で、全道より3.1ポイント、全国より1.0ポイント高くなっています。
- ・「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組み立てを工夫していますか」に対する肯定的な回答は、全道の65.6%、全国の68.5%に対して石狩市は66.6%で、全道より1.0ポイント高く、全国より1.9ポイント低くなっています。
- ・「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えながら読んでいますか」に対する肯定的な回答は、全道の69.7%、全国の71.4%に対して石狩市は67.5%で、全道より2.2%、全国より3.9%低くなっています。
- ・「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道の79.5%、全国の80.4%に対して石狩市は79.1%で、全道より0.4ポイント、全国より1.3ポイント低くなっています。

平成31(令和元)年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 算数】

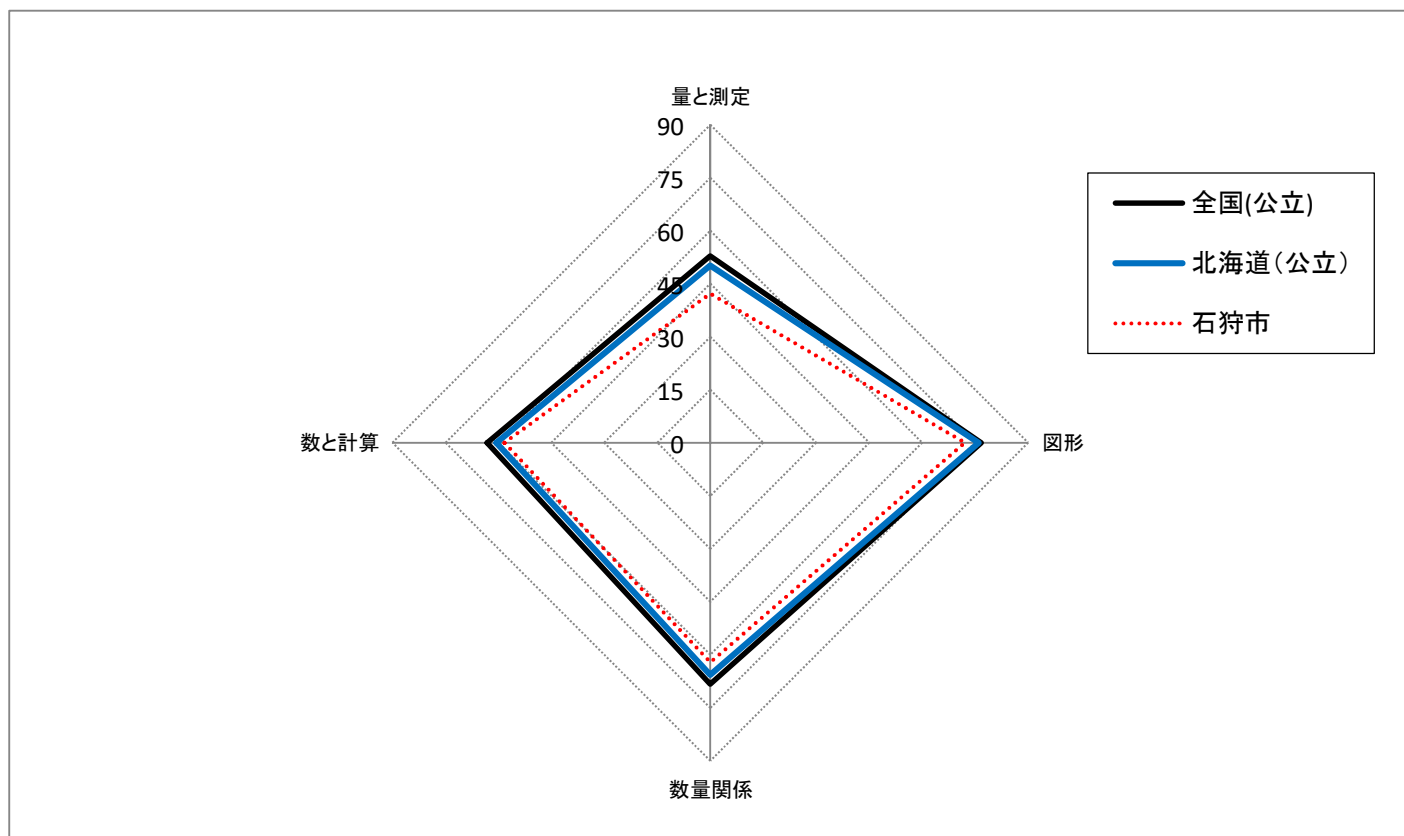
□ 正答率の状況 □

	算数	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	9.3問/14問	66.6%
全道(公立)	9.0問/14問	64.5%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				☆			○		
全国 : ☆									

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域等の平均正答率の状況 □



□ 算数科の概要 □

- ◇算数の平均正答率は、全道よりやや低く、全国より低い結果でした。昨年度との比較では、出題形式が変更されたことから一概には判断できませんが、昨年の算数ABの平均正答率と比較すると全国との差が広がりました。
- ◇領域別では、「量と測定」で全道・全国より相当低く、「数量関係」で全国より低く全道よりやや低い結果でした。また、「図形」では全道・全国よりやや低く、「数と計算」では、全道とほぼ同様(下位)で全国よりやや低い結果でした。
- ◇問題形式の正答率では、「選択式」と「短答式」が全道とほぼ同様(下位)で全国よりやや低く、「記述式」は全道・全国より相当低い結果でした。

算数

○調査問題の内容

学習指導要領における「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。

(例)

- ・図形の性質や構成要素に着目して、基本的な平面図形を考察する。
- ・日常生活の問題の解決のために、資料の特徴や傾向を基に考察したり、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断する。
- ・計算の仕方を解釈して適用したり、考察したりする。
- ・日常生活の問題の解決のために、場面から伴って変わる二つの数量を見出し、数学的に表現・処理して判断する。
- ・問題数は14問です。

【各領域の傾向】

- ・「数と計算」の領域は、全道とほぼ同様（下位）で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「量と測定」の領域は、全道・全国より相当低い傾向にあります。
- ・「図形」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向にあります。
- ・「数量関係」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1(1)	長方形を直線で切ってきた図形の中から、台形を選ぶ	台形について理解している	図形	88.5%	92.2%	93.1%
2(1)	1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる	数量関係	94.3%	95.3%	95.2%
3(1)	350-97について、引く数の97を100にした式にして計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる	数と計算	81.3%	80.5%	81.8%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1(3)	減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く	示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる	量と測定	31.1%	41.8%	43.9%
2(3)	二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる	量と測定	41.4%	49.5%	52.1%
3(2)	減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く	示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる	数と計算	26.2% *無回答率 8.0%	30.1% *無回答率 12.1%	31.1% *無回答率 10.8%

【指導の改善にあたって】

【問題番号1（3）量と測定】

- ・本問では、示された図形の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することが求められています。指導にあたっては、例えば、本問題を用いて、二つの合同な台形で作られた形について、面積の求め方を考察し式で表現して、面積の求め方について説明し合う活動が考えられます。その際、示された図形が既習である図形で構成されている形と捉えることができるようにすることが大切です。さらに、面積の求め方について数式を用いて説明した場合には、数の意味や演算の意味などを、学級全体に問いかけ、図形と関連付けて説明することができるようにすることも大切です。

【問題番号2（3）数量関係】

- ・本問では、資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することが求められています。指導にあたっては、例えば、本問題を用いて水を大切に使用しているかどうかを知るために、市全体の水の使用量には、市の人口が関係していることに気付き、一人当たりの水の使用量について考察し、判断する活動が考えられます。その際、市全体の使用量と市の人口について、それぞれの資料の特徴や傾向を関連付けて考察する必要があることに気付くようにすることが大切です。

【問題番号3（2）数と計算】

- ・本問では、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することが求められています。指導にあたっては、例えば商が同じになるいくつかの除法の式を基に、除法に関して成り立つ式を見出す活動が考えられます。その際、被除数と除数や、商について、適用する数の範囲を広げていながら、見出したことがほかの数値の場合でも成り立つかどうかを確かめることができるようにすることが大切です。

【教科(算数)に関する意識(質問紙の傾向)】

- ・「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の66.4%、全国の68.6%に対して石狩市は67.2%で、全道より0.8ポイント高く、全国より1.4ポイント低くなっています。
- ・「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.2%、全国の93.7%に対して石狩市は91.0%で、全道より2.2ポイント、全国より2.7ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.8%、全国の83.5%に対して石狩市は82.2%で、全道より1.4ポイント高く、全国より1.3ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の92.0%、全国の92.5%に対して石狩市は90.4%で、全道より1.6ポイント、全国より2.1ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の73.2%、全国の76.5%に対して石狩市は75.0%で、全道より1.8ポイント高く、全国より1.5ポイント低くなっています。
- ・「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の77.0%、全国の79.1%に対して石狩市は82.4%で、全道より5.4ポイント、全国より3.3ポイント高くなっています。
- ・「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.4%、全国の82.0%に対して石狩市は82.5%で、全道より2.1ポイント、全国より0.5ポイント高くなっています。
- ・「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」に対する肯定的な回答は、全道の80.1%、全国の82.1%に対して石狩市は82.6%で、全道より2.5ポイント、全国より0.5ポイント高くなっています。
- ・「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道の78.4%、全国の80.7%に対して石狩市は79.1%で、全道より0.7ポイント高く、全国より1.6ポイント低くなっています。